

令和7年度事業報告書

1. 活動の成果

利用者が地域において自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、居宅介護、重度訪問介護、移動支援及び生活介護の各事業を実施し、障害福祉サービスの提供に努めました。これにより、利用者の地域生活の維持及び向上に一定の成果を上げることができました。一方で、介護職員の人材不足が継続しており、すべての利用ニーズに対して十分な対応を行うには至りませんでした。人材確保に向けた取り組みは実施しているものの、十分な成果には結びついておらず、引き続き解決すべき課題となっています。

2. 各事業の実施状況

①ショートステイ事業

本年度においては、生活介護利用者に対する制度外支援として限定的な利用がありました。本事業は、当法人の既存利用者に対する補完的支援として実施しました。

②居宅介護・重度訪問介護・移動支援事業

居宅介護については、入浴介助及び通院介助の利用が中心となりました。通院介助後には、職員による受診内容の聞き取りを行い、利用者の健康状態の把握に努めました。

重度訪問介護については、年度途中より新たに1名が単身生活を開始したことに伴い、支援対象者は計4名となりました。利用者の増加により、急病及び緊急時に対応できるバックアップ体制の整備が求められており、職員の確保が引き続き課題となっています。

移動支援事業については、新規利用契約は締結しておらず現有職員により対応可能な範囲で事業を実施しました。

本事業全体において、介護職員の確保及び定着は最重要課題となっています。今後も継続的な採用活動を行う必要があります。

③生活介護事業

本年度後半より生活支援員を増員し、次年度からの利用者増に向けた体制整備を前倒しで実施しました。職員配置を充実させたことにより、個々の利用者に対する支援の質の向上を図ることができました。

授産活動としては、豆腐の製造販売、農作業による野菜の生産・販売、紙袋やスナップボタン等の軽作業を実施しました。

軽作業については年間を通じて安定的に作業提供を行うことができ、収入の確保にもつながりました。

野菜の生産及び販売については、天候等の影響を受ける中、地域農家からの仕入れを行うことで一定の売上を維持しました。その結果、利用者に対して毎月の工賃に加え、12月及び年度末に賞与を支給することができました。

また、季節ごとに遠足、慰労会、忘年会等の行事を実施し、利用者の社会参加及び生活の質の向上に努めました。